

# 営農技術情報

－畑作（秋まき小麦②）－

令和2年 5月1 日発行

上川農業改良普及センター名寄支所 TEL01654-2-4524

JA道北なよろ TEL01655-3-2521

JA道北なよろ営農センター TEL01654-3-4307

## ～今後の栽培管理について～

本年は融雪が早かったため、秋まき小麦の生育は平年より10日～2週間程度早く進んでいます。また、生育量は平年並～多く、ほ場間の生育差が大きいです。

それぞれのほ場の生育状況を確認し、生育量に応じた施肥管理と雑草対策で良品多収を目指しましょう。

### 1 幼穂形成期(平年 5/13)の窒素追肥について

幼穂形成期の追肥は1穂粒数の増加に寄与しますが(図1)、過度に効くと急激に草丈が伸長したり、過繁茂により倒伏のリスクが高まります。表1を参考に追肥量を加減して下さい。

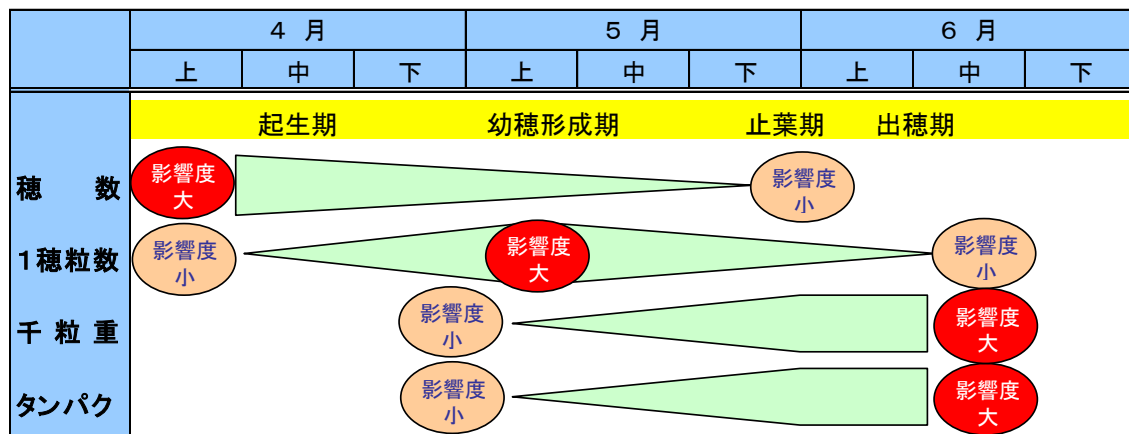
＜雪上もしくは4月中旬までに追肥を行った場合＞

葉色が淡くなっている場合は、早期に追肥を行いましょう。

＜4月下旬以降に追肥を行った場合＞

5月中旬～下旬をめどに、葉色および生育状況を確認した上で追肥を判断しましょう。

【 図1 生育時期による窒素追肥の効果 】



【 表1 幼穂形成期の生育に応じた窒素追肥量の目安 】

幼穂形成期の茎数	窒素追肥量の目安	備考
1,500本/㎡以上	2kg/10a	葉色が濃い場合は追肥を遅らせる。
1,200～1,500本/㎡	2～4kg/10a	生育量に応じて2～4kg/10aの範囲で追肥を行う。 葉色が濃い場合は追肥を遅らせる
1,200本以下	4～6kg/10a	葉色が濃い場合は、少なめとする。

## 2 雑草防除

雑草の生育が進むと除草剤の効果が低下します。また、防除通路や欠株となった箇所では雑草が繁茂しやすくなります。

優占雑草の種類に応じて薬剤を選択し、使用時期が遅れないよう散布しましょう。

【表2 秋まき小麦の除草剤例】

除草剤名	対象雑草	使用時期	10a 使用量	回数
エコパートフロアブル	シロザ タデ類 ハコベ	止葉抽出前まで (雑草発生始期) (収穫45日前まで)	50～75ml	2
MCP ソーダ塩	シロザ タデ類 ハコベ	小麦の幼穂形成期 (収穫45日前まで)	300g	1
バサグラン液剤			100～150ml	1
ハーモニー75DF水和剤	ナズナ スカシタゴボウ	節間伸長開始期 ～穂ばらみ期 (収穫45日前まで)	3～10g	1
	ギンギン類	小麦の幼穂形成期 (収穫45日前まで)	3～5g	

- 【注意事項】
- ・エコパートフロアブル：展着剤は加用しない。
  - ・MCP ソーダ塩：好天日（20℃以上）に散布する。
  - ・バサグラン液剤：好天の続く時期に散布する。
  - ・ハーモニー75DF：使用後は器具類を専用の洗浄剤で洗う。

## 3 病害防除

### ①眼紋病

- ・連作ほ場、短期輪作ほ場では発生しやすくなります。
- ・連作や過去に発生が見られたほ場では、幼穂形成期頃に防除を実施しましょう。

【表3 眼紋病の防除薬剤例】

薬剤名	使用倍率	使用時期	使用回数
カンタスドライフロアブル	1,500倍	収穫45日前まで	2回以内

### ②赤さび病

- ・高温、乾燥条件が続くと発病しやすくなります。一部のほ場では、すでに下葉で発生しています。
- ・止葉抽出までに下葉に病斑が目立つ場合は、止葉抽出～穂ばらみ期にも防除を実施しましょう（通常は、赤かび病の薬剤散布と同時防除）。

【表4 赤さび病の防除薬剤例】

薬剤名	使用倍率	使用時期	使用回数
アミスター20フロアブル	2,000～3,000倍	収穫7日前まで	3回以内
チルト乳剤25	2,000倍	収穫3日前まで	春期以降3回以内

※チルト乳剤25を使用する場合は、赤かび病防除での使用回数に注意してください。